

別添４－７（第３の２（２）関係）

令和４年度持続的生産強化対策事業のうち
畜産ＧＡＰ拡大推進加速化（畜産ＧＡＰ認証審査支援）に関する事業評価票

事業実施主体名	公益社団法人中央畜産会
事業の概要	日本版畜産 GAP 認証審査支援を通じた GAP の普及推進に係る全国的な取組を支援し、畜産 GAP 認証取得の拡大を推進。
成果目標の 具体的内容	令和５年度における畜産 GAP の認証取得経営体数を昨年度（６経営体）以上に拡大推進。 〔①審査員養成研修（１回、１０名） ②審査員力量向上研修（２回、４０名）〕
成果目標の 達成状況	７経営体 〔①１回、５名 ②２回、４４名〕
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる ☒ B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	・新型コロナウイルス感染症により人の移動が制限された影響や、高病原性鳥インフルエンザ防疫対策の関係で、審査員養成研修に係る参加者数は計画の半数となった。 ・しかしながら、事業実施主体の努力によっては如何ともし難い畜産特有の問題である高病原性鳥インフルエンザ、豚熱の発生、防疫対策等の影響下において、オンライン研修や遠隔審査に新たな取組みを取り入れて畜産 GAP の普及定着に着実に努めた結果、成果目標である畜産 GAP の新規認証取得経営体数の昨年度（６経営体）以上の増加（７経営体）は達成されたことから、総合評価としては「Ｂ評価（計画どおりの成果が見られる）」とする。

別添４－７（第３の２（２）関係）

令和４年度持続的生産強化対策事業のうち
畜産GAP拡大推進加速化（畜産GAP認証審査支援）に関する事業評価票

事業実施主体名	エス・エム・シー株式会社
事業の概要	審査員を対象とした日本版畜産 GAP の専門知識に関する研修会を実施し、改訂された認証基準への対応を行うとともに、審査機関の増設を図ることで審査体制を充実させ、畜産 GAP の拡大及び推進。
成果目標の 具体的内容	①審査員 40 名の維持、新規審査員契約 5 名 ②年度内に新規認証機関増設 ③畜産 GAP の認証取得経営体数の昨年度（39 経営体）以上の増加
成果目標の 達成状況	①審査員 45 名の維持、新規審査員契約 7 名 ②２月に鹿児島大学共同獣医学部の新規認証機関増設 ③畜産 GAP の認証取得経営体数 25 経営体
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	・審査員力量向上研修等を通じて、計画以上の審査員の維持、新規審査員の契約が行われた。 ・また、令和５年２月には鹿児島大学共同獣医学部が新たな審査機関として登録。 ・しかしながら、事業実施主体の努力によっては如何ともし難い畜産特有の問題である高病原性鳥インフルエンザ、豚熱の発生、防疫対策等の影響下において、畜産 GAP の新規認証取得経営体数を昨年以上に増加させる目標については、家畜疾病の影響等により達成できなかったものの、192 の取得経営体の維持することができたことは評価。 ・このため、総合評価としては「C評価（計画どおりの成果が見られない）」とするが、事業実施主体の努力によっては如何ともしがたい畜産特有の問題である高病原性鳥インフルエンザ、豚熱の発生の防疫防疫対策により人の移動制限等により取組が困難であったことから、次期事業については成果が上がるよう、引き続き国からも事業実施主体に対して指導して行くこととし、今回の評価は終了する。

別添４－７（第３の２（２）関係）

令和４年度持続的生産強化対策事業のうち
畜産GAP拡大推進加速化（畜産GAP認証拡大支援）に関する事業評価票

事業実施主体名	一般財団法人日本GAP協会
事業の概要	日本版畜産 GAP 認証の国際化を見据え、国際基準（GFSI など）を踏まえた JGAP 総合規則改定の検討、Codex HACCP や SDGs を反映した JGAP 基準書の解説書、研修資料を作成し、指導員・審査員へ周知。 畜産 GAP の認証拡大に向けて、消費者、流通小売業者に向けメディアを活用して情報発信、生産者・チャネルに対するニーズ等調査を行い、生産者とチャネルが連携した成功事例等を情報発信するオンラインイベントを開催。
成果目標の 具体的内容	①国際基準（GFSI など）を踏まえた JGAP 総合規則の改定、解説書、研修資料の作成 ②生産者・チャネルが連携したマッチング成功事例等の発表イベントに 150 名以上の参集 ③令和４年度における新規認証経営体数を対前年度比 120% ④認証農場ロゴマーク 10 件、農畜産物使用ロゴマーク 5 件増
成果目標の 達成状況	①技術委員会（３回）を経て改定し、令和４年 11 月公表解説書、研修資料の作成 ②平成 5 年 3 月にロゴマークを活用したオンラインイベントを開催し、124 名を参集 ③生産者 59 名、事業者 16 社を対象としてニーズ調査し、Web 特設ページへ掲載。令和４年度における新規認証経営体数を対前年度比 71% ④認証農場ロゴマーク 13 農場、農畜産物使用ロゴマーク 4 件
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる B : 計画どおりの成果が見られる Ⓒ : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	・ JGAP 総合規則の改定、解説書、研修資料は計画どおり作成され、周知徹底が行われた。 ・ 高病原性鳥インフルエンザ防疫強化対策等の中で行われた生産者・チャネルが連携したマッチング成功事例等の発表イベントでは目標 150 名以上の参集に対して 124 名が参加したことは評価。 ・ 畜産 GAP 新規認証農場数は、事業実施主体の努力によっては如何ともし難い畜産特有の問題である高病原性鳥インフルエンザ、豚熱の発生、防疫対策等の影響下において、対前年度（45 経営体）の 120% の増加の目標に対して▲144%（32 経営体）。

	・認証農場ロゴマーク、農畜産物使用ロゴマークは合わせて 15 件の目標に対して、17 件と目標は達成。 ・このため、総合評価としては「C 評価（計画どおりの成果が見られない）」とするが、事業実施主体の努力によっては如何ともしがたい畜産特有の問題である高病原性鳥インフルエンザ、豚熱の発生の防疫防疫対策により人の移動制限等により取組が困難であったことから、次期事業については成果が上がるよう、引き続き国からも事業実施主体に対して指導して行くこととし、今回の評価は終了する。
--	---